

平成25年度病害虫発生予報第11号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	べと病	並	並
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	少	少
	菌核病	並	並
	灰色かび病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	やや少	やや少
トマト	黄化葉巻病	やや少	並
	灰色かび病	やや少	やや少
	コナジラミ類	やや多	やや多
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	やや多	やや多
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ハダニ類	並	並
たまねぎ	べと病(防除情報第12号)	やや多	やや多
	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	やや少	やや少
ブロッコリー	黒腐病	やや多	やや多
	べと病	並	並

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は4.3%(3.8%)、発生圃場率は41.7%(34.6%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並が多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。

イ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

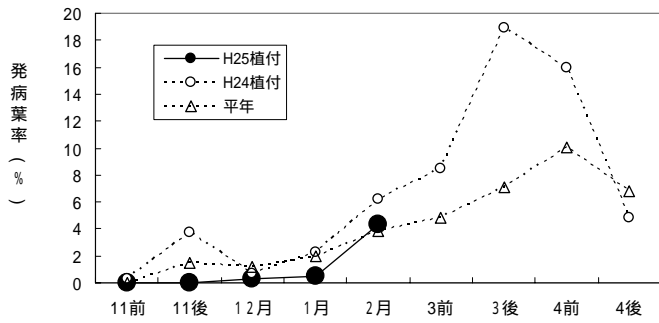


図 キウリペと病 発病葉率の推移

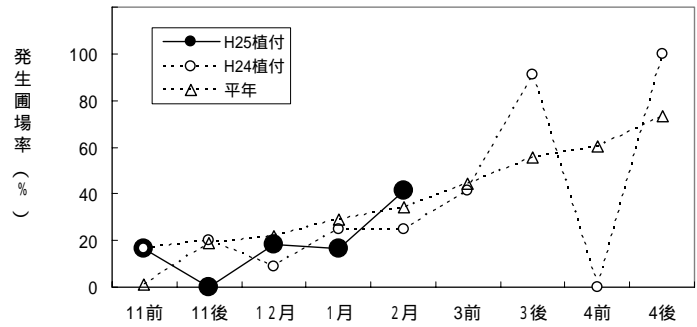


図 キウリペと病 発生圃場率の推移

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は6.3%(6.9%)、発生圃場率は75.0%(61.5%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率2.9%、発生圃場率39.0%)。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は8.3%(1.7%)であった。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率2.1%)。

イ 向こう1か月の降水量は平年並が多い見込みであり、本病の発生に好適である。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.3%(0.5%)、発生圃場率は8.3%(11.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 本虫は、吸汁により黄化えそ病を媒介するため、発生初期からの防除を徹底する。
- イ ハウス内および周辺の雑草は本虫の生息・増殖源となるので除去し、環境衛生に努める。
- ウ 本虫は芽に潜り込みやすいので、芽かきした摘葉は残さず集めて施設外に持ち出し、土中に埋めるか、ビニル袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。
- エ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

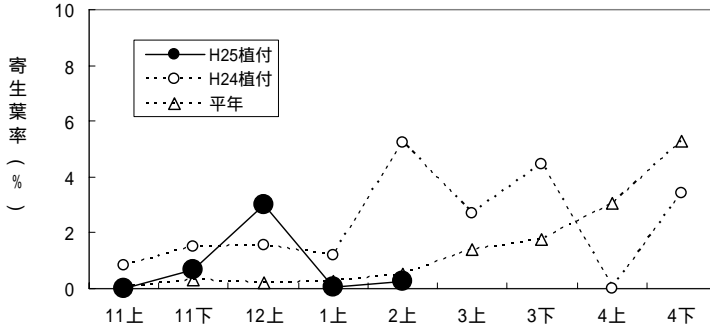


図 ミマキロアザミマ寄生葉率の推移

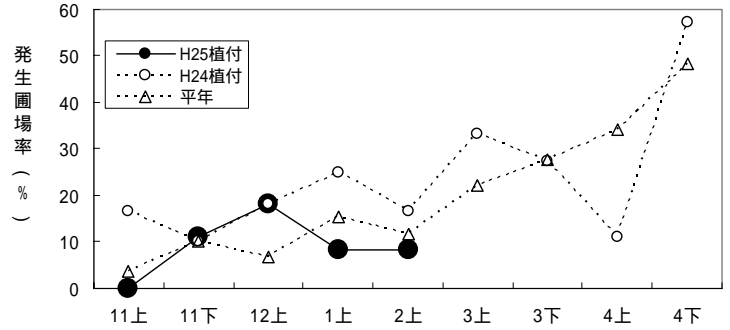


図 ミマキロアザミマ発生圃場率の推移

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.1%(1.7%)、発生圃場率は8.3%(25.2%)であった。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.0%(過去9ヵ年0.7%)、発生圃場率は8.3%(同28.5%)であった。

イ 栽培初期の発病が多く(図)、2月上旬の巡回調査においてコナジラミ類の発生が多かった(コナジラミ類の項参照)。

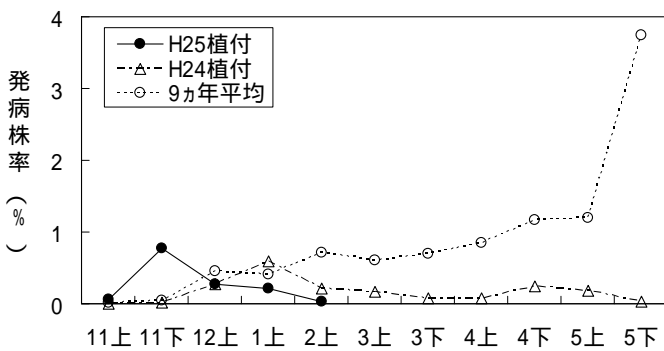


図 トマト黄化葉巻病発病株率の推移

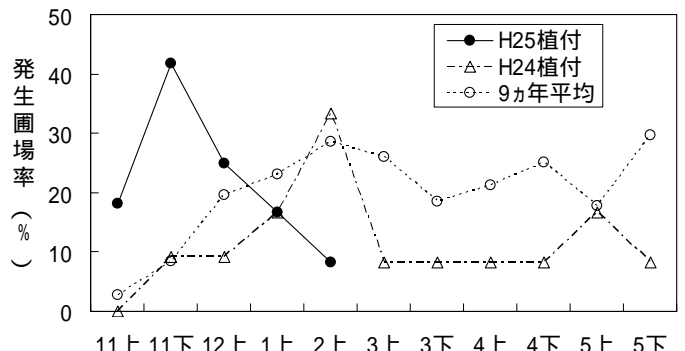


図 トマト黄化葉巻病発生圃場率の推移

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、果実では発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率8.6%)。葉では発病葉率は0.0%(前年0.8%)、発生圃場率は8.3%(同16.7%)であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.8%(寄生株率0.4%)、発生圃場率は41.7%(15.2%)であった。

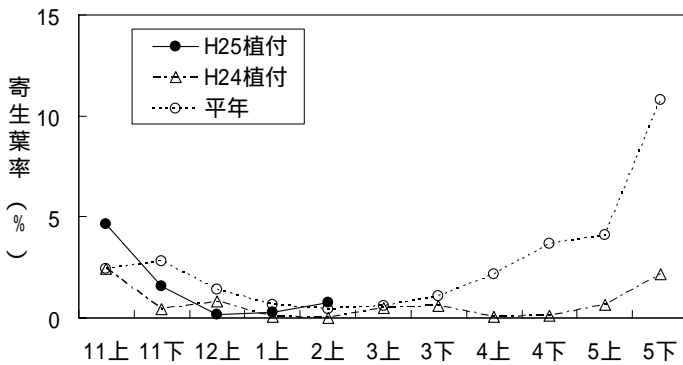


図 トマト コナジラミ類 寄生複葉率の推移

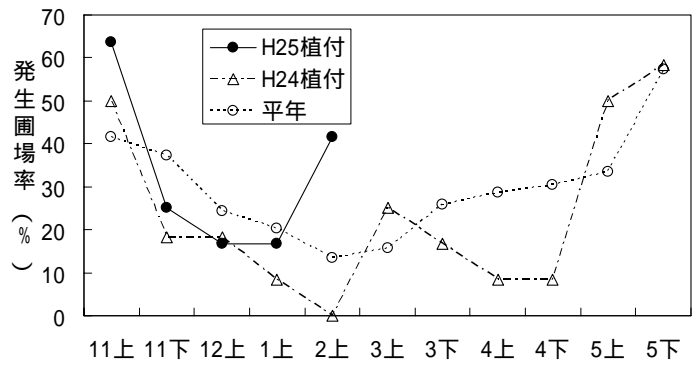


図 トマト コナジラミ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 施設内の雑草は本虫の増殖源となるので除草を徹底する。
- イ 黄化葉巻病の二次伝染を防ぐため、初期防除に努めできるだけ密度を低くする。
- ウ 本虫は強い薬剤抵抗性をもつので薬剤選定に当たっては十分留意し、系統の異なる薬剤でローテーション散布を行う。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.2%、発生圃場率3.7%、発病果率0.0%、発生圃場率は1.4%)。

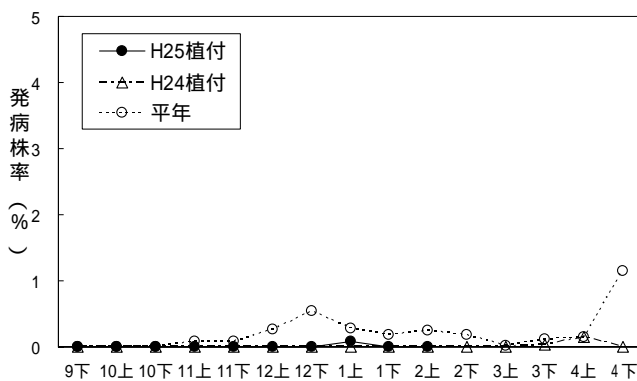


図 いちご うどんこ病 発病株率の推移
 平年: H15 ~ H24の平均値(最大・小値除く)
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H24の平均値

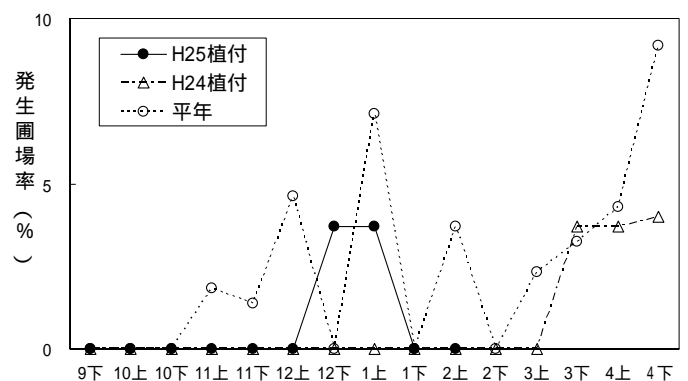


図 いちご うどんこ病 発生圃場率の推移
 平年: H15 ~ H24の平均値(最大・小値除く)
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H24の平均値

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は25.9%(11.1%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

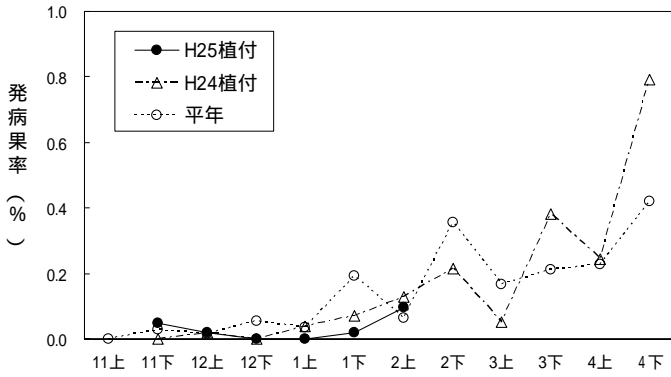


図 いちご 灰色かび病(果実) 発病果率の推移
平年: H15 ~ H24の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H24の平均値

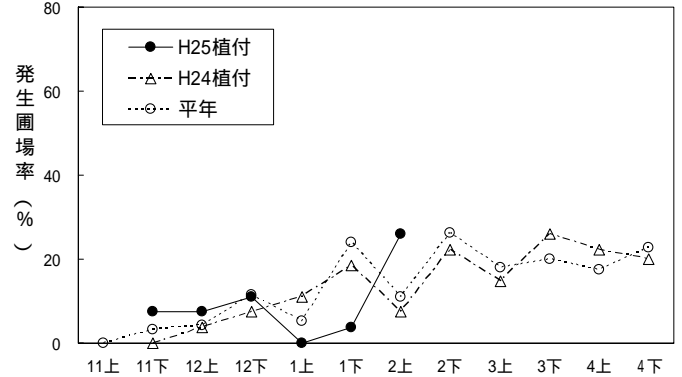


図 いちご 灰色かび病(果実) 発生圃場率の推移
平年: H15 ~ H24の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H24の平均値

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多湿にならないよう圃場の排水に留意し、換気をこまめに行う。

イ 予防的な薬剤防除に努める。曇雨天時はくん煙剤を利用する。

ウ 発病した果実や枯死葉は、伝染源となるので速やかに取り除き、施設外へ持ち出して適切に処分する。

エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.0%(0.6%)、発生圃場率は14.8%(9.7%)であった。

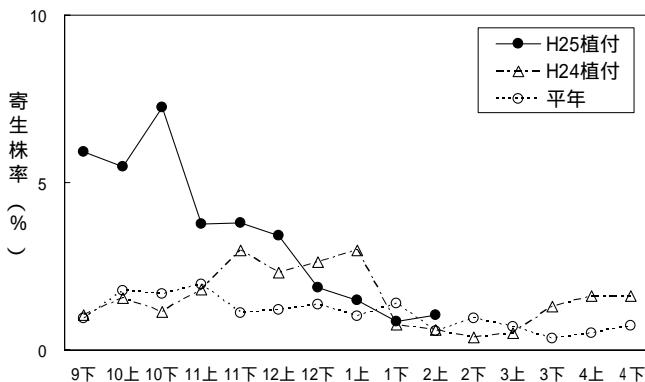


図 いちご アブラムシ類 寄生株率の推移
平年: H15 ~ H24の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H24の平均値

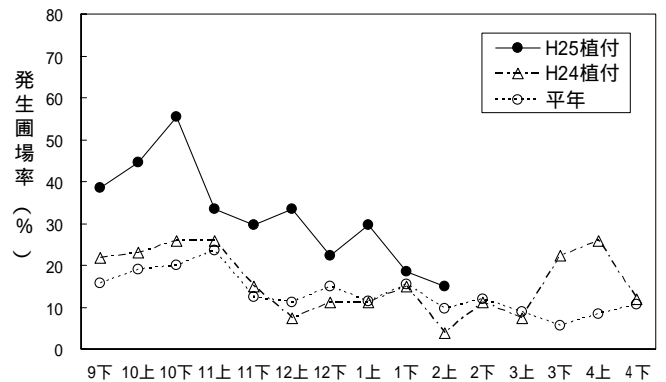


図 いちご アブラムシ類 発生圃場率の推移
平年: H15 ~ H24の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H24の平均値

(3) 防除上注意すべき事項

ア 花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。

イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は4.0%(4.7%)、発生圃場率は33.3%(36.1%)であった。

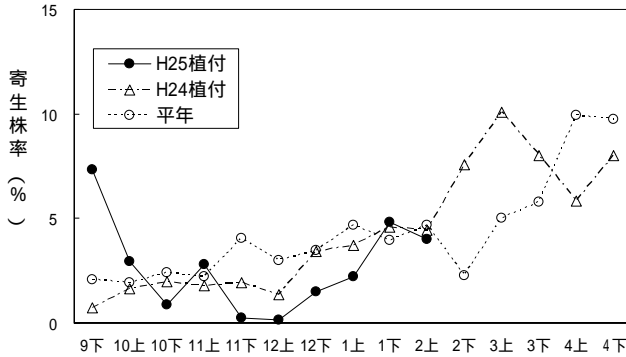


図 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
平年: H15～H24の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19～H24の平均値

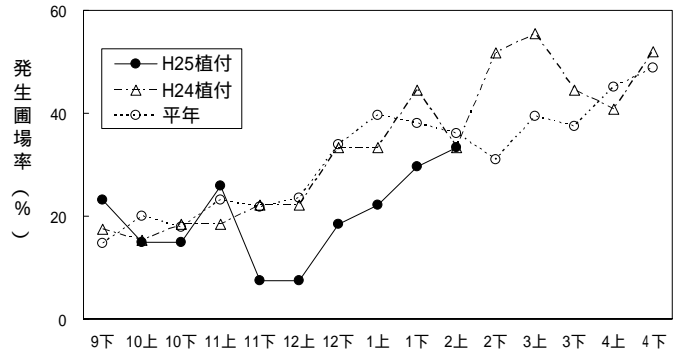


図 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
平年: H15～H24の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19～H24の平均値

たまねぎ

1. ベと病

平成26年2月18日付け病害虫発生予察防除情報第12号による。

2. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率5.0%)。

3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は10.4%(16.9%)、発生圃場率は46.7%(70.8%)であった。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病株率は1.5%(過去6カ年平均0.3%)、発生圃場率は18.2%(同4.5%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布は予防的に実施し初期感染を防ぐ。発生が多い圃場、およびその周辺圃場では発蕾までに防除を徹底する。

2 . べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(過去6ヵ年平均発病株率0.5%、発生圃場率9.3%)。

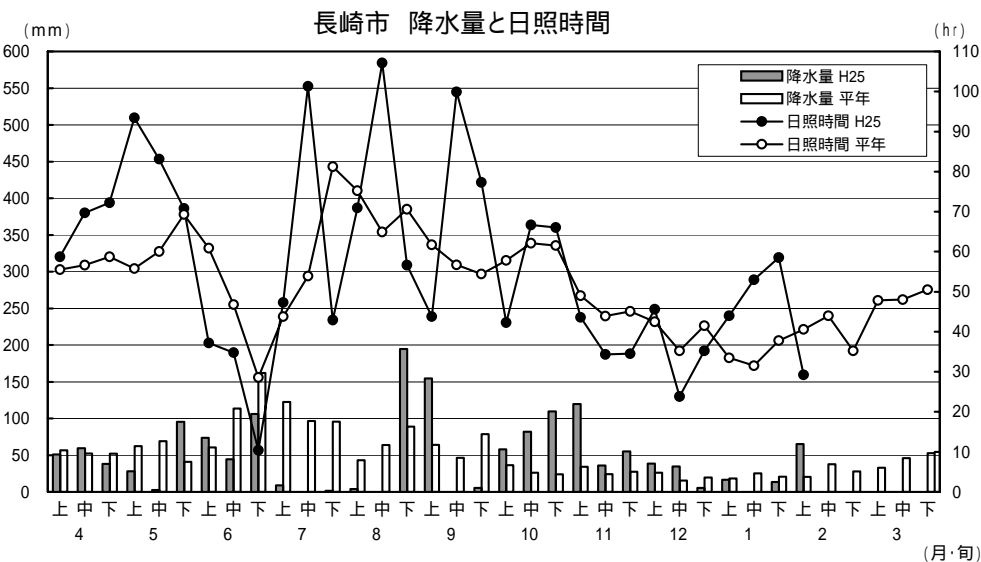
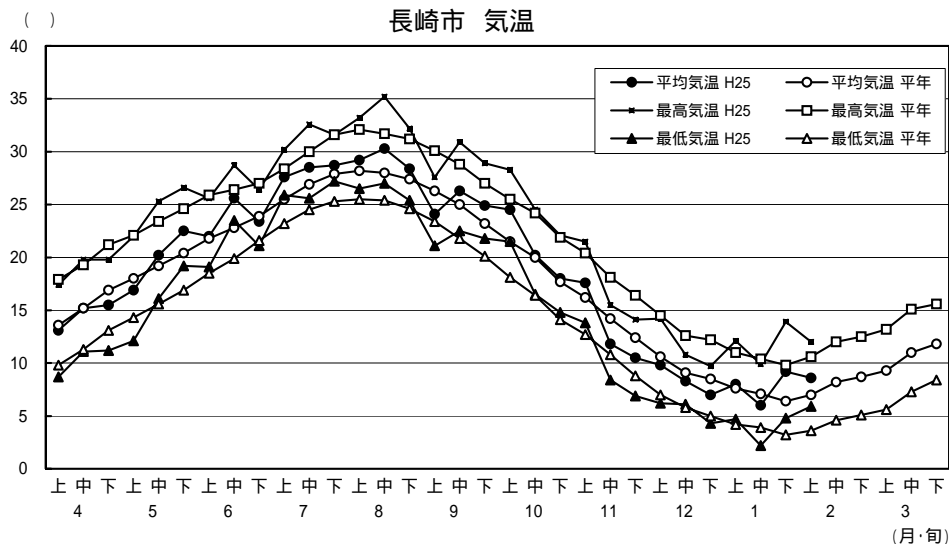
【参考】

気象 (平成26年2月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	20	40	40
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域

平成25年度の気象経過 (長崎海洋気象台)



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病虫害防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027